



会報 71号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



**文部科学省 平成 23 年度 民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業**  
**(特別支援教育に関するNPO等の活動・連携の支援に関する実践研究)**

**「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」**

NPO法人全国LD親の会では、特別支援教育支援員や学校支援ボランティアの質的な向上に資することを目的に、3年計画で特別支援教育支援員や学校支援ボランティアの養成研修の体系化・標準化を図るなどの養成方法の研究に取り組んでいます。

本年度も、文部科学省から平成 23 年度民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業(特別支援教育に関するNPO等の活動・連携の支援)の委託を受け、3年間の最終年次として取り組んでいるところです。

区市町村単位での支援員の養成は、質・量ともに限界があることから、区市町村を超えた養成講座の実施、養成講座修了者が区市町村を超えて支援員として活躍できるような信頼性と認知度の高い養成講座の実施を目指しています。

**<事業内容>**

**1.カリキュラム体系、シラバスの策定**

文部科学省委託研究等の先行事例(東北学院大学、NPO法人EDGE等)の参照、渋谷区の学校長に対する支援員に求める資質や養成講座の内容の希望アンケート、養成講座受講生の効果アンケート等の実施、さらに障害者団体、職能団体、校長会、肢体不自由特別支援学校校長経験者等からなる外部諮問委員からもご意見を聴取した上で、学習支援員コース、支援員コースのカリキュラム案の策定を行っています。

養成講座の内容の明確化、標準化を図るためにカリキュラム体系を構成する科目について、定型のフォーマットを定め、①当該科目に含むべき事項、②概要、③目標、④キーワードを、養成講座の講師や学識経験者に素案を策定していただき、24科目のシラバスを策定しました。

3年目の今年も、全国で共通して使えるような、特別支援教育支援員養成用のテキストの作成を目指し、最終的なカリキュラム体系、シラバスの調整を行っています。

**2.養成講座の実施**

1-2年次は短縮版で実施していましたが、今年度は、実行版に近い形で、4コースにわけ養成講座を実施しています。

**①ボランティア支援員コース(大阪市)**

会場:大阪府立男女共同参画青少年センター  
 9科目 12時間 受講生:49名

第1日 2011年8月27日(土) 10:00~17:30

科目	
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 大谷 和夫(池田市立石橋小学校)
2	特別支援教育概論 竹田 契一(特別支援教育士資格認定協会)
3	主な障害の特性の理解 竹田 契一(特別支援教育士資格認定協会)
4	子どもへの対応の基本 苫廣 みさき(堺市立五箇荘東小学校)
5	障害のある子どもの心理 苫廣 みさき(堺市立五箇荘東小学校)

第2日 2011年8月28日(日) 9:40~16:30

6	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方 小田 浩伸(大阪大谷大学)
7	子どもの特性と対応方法 小田 浩伸(大阪大谷大学)
8	子どもの特性と対応方法 伊丹 昌一(大阪府教育センター)
9	ロールプレイング、グループ討議 伊丹 昌一(大阪府教育センター)
	修了式

受講生へのアンケートでは、全体のカリキュラムについては「適切に網羅していた」59%、「おおむね網羅していた」39%、講座の満足度は「とても満足している」82%、「やや満足している」18%という結果で、全般的に昨年度より高い評価をいただきました。親の会からの参加者は、「おたふく会」「たつの子」「トムソーヤ」など近畿ブロックの親の会を中心に25名でした。



**②支援員コース・学習支援員コース(東京都)**

会場:渋谷区文化総合センター大和田

支援員コース:18科目 24時間 受講生:26名

学習支援員コース:24科目 30時間 受講生:11名

第1日 2011年12月9日(金)9:30~16:50

(支援員コース・学習支援員コース共通)

科目	
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 上野 一彦(一般社団法人日本LD学会)
2	特別支援教育支援員としての業務 吉田 昌義(帝京大学)
3	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 吉田 昌義(帝京大学)
4	主な障害の特性の理解(1) 篁 倫子(お茶の水大学大学院)
5	主な障害の特性の理解(2) 篁 倫子(お茶の水大学大学院)

第2日 2011年12月10日(土)9:10~16:50

(支援員コース・学習支援員コース共通)

6	子どもの特性と対応方法(A)-③④ 増田 博信(ときがわ町立都幾川中学校)
7	子どもの特性と対応方法(A)-① 上原 芳枝(区巡回訪問研修スーパーバイザー)
8	子どもへの対応の基本 両川 晃子(信州大学附属病院)
9	障害のある子どもの心理 両川 晃子(信州大学附属病院)

第3日 2011年12月11日(日)9:10~16:50  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

10	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 長沼 俊夫(国立特別支援教育総合研究所)
11	学校・学級での支援の仕方 漆沢 恭子(植草学園短期大学)
12	担任との連携の仕方 漆沢 恭子(植草学園短期大学)
13	ペアレント・トレーニングの視点(1) 河内 美恵(まめの木クリニック)
14	ペアレント・トレーニングの視点(2) 河内 美恵(まめの木クリニック)

第4日 2011年12月17日(土)9:10~16:30

(支援員コース・学習支援員コース共通)

15	子どもの特性と対応方法(A)-② 田中 容子(三鷹市教育委員会)
16	ロールプレイング、グループ討議 田中 容子(三鷹市教育委員会)
17	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー・事例 松本 裕子(渋谷区立富谷小学校)
18	現役支援員からのレクチャー・討議 田村 百代(渋谷区教育委員会)・学習支援員1名
	修了式(支援員コース)

第5日 2011年12月18日(日)9:10~16:30

(学習支援員コースのみ)

19	子どもの特性と対応方法(B)-①② 海津 亜希子(国立特別支援教育総合研究所)
20	学習面の困難とサポート方法(B)-③ 大城 政之(国立特別支援教育総合研究所)
21	ロールプレイング、グループ討議 梅田 真理(国立特別支援教育総合研究所) 大城 政之(国立特別支援教育総合研究所)
	修了式(学習支援員コース)

今年度は、両コースとも昨年度より1日長い日程を組みましたが、一人の欠席者もなく、全日程を終了することができました。最終日に「非常に充実した研修をうけることができ感謝しています」との声を多くの方から掛けていただきました。アンケート結果も「とても満足している」86%、「やや満足している」14%で、受講生全員に満足していただくことができました。親の会からの参加者は、「にじの会」「けやき」「麦」など関東ブロックの親の会を中心に18名でした。

**③家族支援ピアカウンセラー養成コース(神戸市)**

日時:2012年1月28日、29日

会場:神戸市立兵庫勤労市民センター

(内藤)

## 発達障害児のためのサポートツール・データベース事業



3年に及ぶ「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及」事業もまとめの段階に入りました。

今まで、子どもがもつ困難や特性に合わせた教材・教具を現場の教員や保護者が利用できるデータベースとして充実・整備し、子どもの特性に合わせた教材・教具の活用方法研修会の開催等を行ってきました。

市販の教材集や販売用のカタログ等教材・教具に関する情報はその多くが断片的であることから、親の会が主体となって、手作り品・市販品を含めた総合的・体系的で、発達障害等のある子どもの多様なニーズに応える広範かつ当事者視点のデータベースを構築することを目標にしました。更に、発達障害児教育に係わる地域ネットワークの活性化に結び付けていくため、子どもの特性に応じた教材・教具の使い方の研修会を開催しました。

### 1. データベースへのサポートツール掲載

3カ年計画で、データベースの掲載総数1000件程度を目標として教材・教具の収集・掲載に取り組んできました。初年度は236件、昨年度は212件をデータベースに追加して、現在の掲載数は887件になっています。今年度は最終的に1000件の掲載数を目標に事業を進めています。

#### ●今年度の公募審査会

第1回:2011年8月6日(土) 14:00-17:00

第2回:2011年12月17日(土) 14:00-17:00

第3回:2012年2月25日(土) 14:00-17:00

現在、教育関係の学会会員、教員、作業療法士会会員を始め保護者等一般からも、広く教材・教具の情報を収集しています。また、教材・教具の実証も公募し、審査を経て、データベースに掲載しています。

公募審査は、国立特別支援教育総合研究所上席研究員、発達障害教育情報センター研究員、教育センター主事、教員、作業療法士等による審査委員会を設置し、年3回審査を行っています。

### 2. Webサイトの改良

サポートツール・データベースに検索機能や、教材のダウンロード機能を加えてきました。今後も、利用しやすいWebサイトを構築していく予定です。

### 3. 新規教材教具の開発

審査外部協力者(教育センター主事、教員、作業療法士等)と新規教材・教具の開発、改良を行ってきました。実際の通級指導教室で使える教材教具を新規開発し、子どもたち一人一人のニーズに応じた形で教材教具を提供し

ていく予定です。

### 4. サポートツール全国キャラバン 2011

#### 「教材教具研修会」

毎年3回、全国各地で教材教具の使い方についての研修会を開催してきました。1年目は新潟市・佐賀市、2年目は秋田市・大垣市・徳島市で開催しました。今年度は札幌市・広島市で開催し、2月の横浜市での開催で終了となります。

#### ●サポートツール全国キャラバン 2011 in 広島

2011年9月4日(日)10:00~16:30

会場:広島市東区地域福祉センター 大会議室

参加者:会員19名、一般64名、合計83名

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」

～使い方で変わる教材の有効性～

講師:山田 充先生

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

講師:辻 薫先生

(大阪府作業療法士会 事業部発達部門代表)

ワークショップ「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

参加者の感想

- ・児童生徒の実態とそれに応じた指導・支援の例を数多く紹介して下さったので大変参考になりました。
- ・いろいろな視点で体の使い方や感覚の難しさを知り、我が子がどのような困難を持っているか見つけ直す良いきっかけになりました。
- ・子ども達の様子から分析していく力が本当にまだまだだと自分の力不足を感じ、みなさんの考えを聴いてとても勉強になりました。漢字の難しい子がたくさんいるので、今日は原因や支援を学べて本当によかったです。
- ・保護者、学校の先生、福祉関係の方など、いろいろな立場の方と交流・話ができて、とても有意義でした。

(井上)

#### 「サポートツール全国キャラバン 2011 in 横浜」開催

日時:2012年2月5日(日)9:30~16:40(9:15受付)

会場:横浜市開港記念会館

〒231-0005 横浜市中区本町1-6

※申込先等詳細は、全国LD親の会のホームページをご覧ください。

共催:神奈川県LD等学習障害児・者親の会

「にじの会」

## 一般社団法人日本LD学会第20回大会報告

2011年9月17日(土)～19日(月・祝)

開催校:筑波大学

会場校:跡見学園女子大学 文京キャンパス

テーマ:「あらためて開う発達障害児の学習支援

－ 知能・学力・生きる力 －



石隈利紀大会長(筑波大学)のご挨拶の中に、「子どもの教育についての『危機感』を共有し、子どもの支援に関する『責任』を共有し、子どもの将来への『希望』を共有する・それが実感できる大会になればと願っています」とありました。3日間にわたり、多様なプログラムが企画され、どの会場もほぼ満員で多くの課題を大勢で共有できたと思います。

石隈大会長の講演のテーマは「発達障害のある子どもの学習を支援する」でした。その中で大震災に関連して「学校」の意義や内的回復力と環境・組織の回復力の話が印象的でした。

上野一彦先生(一般社団法人日本LD学会理事長)は「センター入試の改革は日本の教師をどう変えるか」をテーマにご講演されました。平成23年度大学入試センター試験の障害別受験特別措置の障害区分に「発達障害」が明記されたことと今後の課題についてお話しされました。

特別講演Ⅰは、イエール大学のアラン・S・カウフマン博士による「学習困難のある子どもたちを援助する21世紀の賢いアセスメント」でした。アラン博士はK-ABCの開発者でもありますので講演を聴きたいと思っていたのですが、早い段階から行列ができていて入場できなかったのが残念でした。

特別講演Ⅱは、「個別学力検査の意義と活用～学習障害児を援助する臨床ツールとして～」をテーマに、アラン博士が講演されました。アメリカにおける個別学力検査の歴史、学力テストの臨床価値、個別学力検査K-TEA-IIの優れた点について話されました。

興味ある内容のプログラムが重なっていたり、満員で入場できなかったりと残念な点はありましたが、刺激ある3日間でした。会場の跡見女子大学はとてもきれいで、

備品の机もイスも最近のデザインで感激しました。受付でピンクの袋とうちわを頂きました。学校内節電の中でうちわは大活躍でした。細かい心配りが印象的な大会でした。

今大会では、東京「にんじん村」「けやき」、千葉「コスモ」の皆様が展示会場、親の会控え室、懇親会の準備と当日のお手伝いをして下さいました。ありがとうございました。

第21回大会は、2012年10月6日(土)～8日(月・祝)で会場は仙台国際センター(宮城県仙台市)とのことです。(丹藤)

### 親の会企画シンポジウム

日時:9月18日(日)10:00～12:00

発達障害のある子どもをもつ保護者のメンタルヘルス  
～子どものライフステージに応じた家族支援について～

企画者: NPO法人全国LD親の会

司会者: 山岡 修(NPO法人全国LD親の会)

話題提供者: 高山 恵子(NPO法人えじそんくらぶ)

篁 倫子(お茶の水大学大学院)

内藤 孝子(NPO法人全国LD親の会)

指定討論者: 小林 真理子

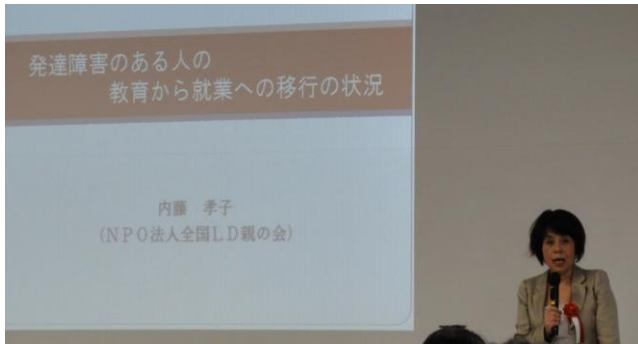
(厚生労働省・発達障害対策専門官)



シンポジウムでは、LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害の子どもライフステージにおける保護者の実態を踏まえ、家族への必要な支援について討議されました。高山氏からは学童期前のペアレントサポートプログラムについて、篁氏からは親のQOLの実態や必要な支援について、内藤理事長からは弊会の会員調査の結果から成人期の子どものもつ保護者の不安や心配などについて、それぞれ話題提供がありました。小林真理子専門官から、話題提供者に対してのご意見と意欲的なご発言を頂きました。ほぼ満席の259名の参加者があり、熱気ある2時間でした。発達障害のある子どもをもつ家族への支援が、新たな制度の中で具体的に実施されていく事を願っています。(丹藤)

## 教育講演

内藤理事長が教育講演⑨に登壇しました。テーマは「発達障害のある人の教育から就業への移行の状況」でした。2011年3月に発行した「教育から就業への実態調査報告書Ⅲ～全国LD親の会の会員調査～」をもとに、後期中等教育、高等教育、就業の実態、諸制度の利用状況、生活の状況などが、3時点(2003年、2006年、2009年)で示され、実態の変化が報告されました。この報告がLD等発達障害のある人に対する教育の質的向上と福祉増進に繋がるものと思いました。(丹藤)



## 親の会紹介ポスター展示

今年のLD学会大会親の会ポスター展示は、15の親の会からのポスターと、全国LD親の会からの教材教具事業、支援員養成事業、教育から就業への移行報告書の各紹介ポスターがあり、これまでで最多数の参加がありました。

千葉コスモは、担当会としてメールでの申し込みと9月から郵送受付、現地持込ポスターの確認、事前の会場設営、ポスターの返却、会場撤収を行いました。ポスターの規格は指定しておりましたが、どのポスターも手作り感満載で、「活動を伝えたい」という意欲が伝わってきました。

会場は、ガラス張りの近代的な教室ですが、学会会場としては、初めてということもあって、展示方法の確認に右往左往しました。大学の担当の先生には、大変お世話になりました。又、事前準備の段階では、2年前のポスター展示担当「けやき」さんより詳細に情報を提供いただきました。関東ブロック内の連携に感謝いたします。



17日の早朝から展示公開の時間まで、全国から集まった役員の方々と協力して最良の展示の形を作り上げていきました。「この現場力で、いくつもの全国行事をこなしているんだなあ」と改めて親の会の力を実感しました。

同じフロアで学会の研究発表(ポスター発表)も行なわれていて、次々と見学者が訪れ、「この県には、どんな親の会があるのですか。」などの質問もあり、結構忙しく、関東ブロックの会員が交代で対応しました。ポスター展示公開後は、書籍販売も合わせて行い、ベテラン会員が根気強く販売に取り組んでいる姿を見習いたいと思いました。

ポスター展示室の隣は、親の会の休憩室になっていました。展示室担当になると、興味のあるシンポジウムに思うようには参加できませんでしたが、休憩室で昼食をとりながら情報交換し、各会の実情や地域の最新情報を得ることができました。

展示終了時間が近くなると、新幹線や飛行機の時間に合わせて、展示の役目を終えたポスターを大切に持ち帰る会も多く、各会に戻って活用されることを想像して温かい気持ちになりました。(吉田)

## 親の会懇親会

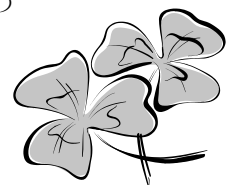
跡見学園女子大学が、大会の会場として初めてということもあり、懇親会は、お店の選定に悩みましたが、会費を安くしてみようと茗荷谷駅から2分の居酒屋にしました。当日は、学会関係の利用で満席状態でした。

親の会企画シンポジウムにご登壇いただいた篁倫子先生、高山恵子先生、小林真理子先生もご参加下さり、28名で大いに盛り上がりました。内藤理事長のねぎらいの挨拶の後、丹藤副理事長の乾杯の音頭と共に皆さんの会話の輪が一気に広がりました。常連で参加される方に混じって入会2年目という方の参加があったのは嬉しいことでした。講師の先生方のご挨拶では「お若い順番にということ」と譲り合っておられましたが、どの先生も親の会との繋がりが大切との思いを強く持たれていました。

恒例の各会からの報告では、それぞれの、お家事情や活動充実のための工夫、役員交代の悩みなどユーモアたっぷりの報告に納得しながらも笑ってしまいました。

その後の談笑の中では、4、5人のお父さんが、焼酎のボトルを手に「おやじの会を作りましょう」と意気投合していたのが印象的でした。

学会の中日で少しリラックスした雰囲気の中、「うちの会もがんばらなくては」と勇気を頂き、皆様と交流を深めることができました。翌日に備え、早めのお開きとなりました。(吉田)



## 中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会

### 1. 中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会の概要

2009年12月に、内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚で構成される「障がい者制度改革推進本部」が設置され、「障害者の権利に関する条約」の批准に向けた検討が開始された。2010年1月には、障害者施策の推進に関する事項について検討するために「障がい者制度改革推進会議」が設置され、2010年6月7日には同会議による第一次意見が取りまとめられた。この第一次意見を踏まえ2010年6月29日の閣議決定において、各個別分野については、事項ごとに関係府省において検討することとされ、これを受けて、中央教育審議会初等中等教育分科会の下に、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」が設置され、山岡が委員として参加している。

### 2. 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理

特別委員会は、2010年12月に、「論点整理」として中間的な取りまとめ内容を公表した。「論点整理」では、インクルーシブ教育システムの理念とそれに向かっていく方向性に賛成とした上で、①就学相談・就学先決定の在り方については、障害のある子どもの教育相談・支援を乳幼児期を含め早期から行うこと、本人・保護者の意見、専門家の意見等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みとすることが必要、就学後も継続的な教育相談を行い、個別の教育支援計画を見直す中で、柔軟に就学先の見直しを図ることが適当。②インクルーシブ教育システムを推進するための人的・物的な環境整備については、発達障害も含め特別支援教育の更なる充実のため、現場での意識改革、指導方法の充実、人的・物的な環境整備等が必要、合理的配慮については、ソフト・ハードの両面が必要、③教職員の確保及び専門性向上のための方策については、大学での教員養成の在り方、管理職を含めた現職教職員の研修体系、採用・配置などについて、今後検討していくことが必要等と提言した。

### 3. 合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ

2011年5月に、特別委員会の下に「合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ(WG)」を設置(山岡が参加)し、大切な論点の一つである、合理的配慮等について検討を開始した。このWGでは、最初に、障害当事者・保護者から、障害種別における「合理的配慮」を含む配慮すべき事項についてヒアリングし、その上で障害種別の検討を行いつつ、障害種を超えた共通事項を整理する過程の中で、「合理的配慮」の観点を整理する作業を行った。

### 4. 合理的配慮等環境整備検討WGの検討状況

WGの検討結果は、2012年1月頃には報告として取りまとめられる予定であるが、現時点(12月中旬)の素案の概要は下記の通りである。(変更される可能性あり)

国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、法令や財政措置により、障害のある子どもに対する支援として、共通的な教育環境の整備をそれぞれ行っているが、WGでは、これらを「共通的環境整備」と位置付けた。そして、これらの「共通的環境整備」を前提として、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供するものとし、「共通的環境整備」と、「合理的配慮」に分けて整理している。

そして、「合理的配慮」については、個別の状況に応じて提供するものであり、これらを障害種別に全てを網羅的に示すことは困難なことから、WGでは、「合理的配慮」を提供するに当たっての観点として①教育内容・方法、②支援体制、③施設・設備について、障害に応じた具体的な配慮を例示するという形で整理している。また、今回の検討では、通常の学級における配慮だけではなく、特別支援学級、特別支援学校における合理的配慮について整理している。具体的には、例えば、LDに関する合理的配慮としては、「得意な能力によって未発達な能力を補完するための指導(作文に代えて絵日記を認める。テストで、教員が読み上げた問題文に口頭で答えるなど)」というような例が示されている。

### 5. 特別委員会の今後の見込み

特別委員会では、WGでの検討も踏まえつつ、①就学先について意見が一致しない場合の調整の仕組み、②合理的配慮、③教職員の研修、④副次的な学籍、⑤特別支援教室構想等について、検討を行っており、早ければ2011年度内に取りまとめられる見込である。上記の検討事項はそれぞれ重要であるが、特に特別支援教室構想は、個々のニーズに柔軟に対応するために有望な制度であり、特に多様なニーズを持つLD等の発達障害のある子どもにとって必要な制度として従来から、全国LD親の会として実現に向けて要望を続けてきたものである。委員として、実現に向けた具体的な案として織り込まれるよう取り組んでいる。本委員会の配布資料や議事録等が文部科学省のウェブサイトに掲載されているので、適宜ご覧いただき、何かご意見があれば、ぜひお寄せいただきたい。

(山岡)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/index.htm)

## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク(JDDネット)より

### ●第7回年次大会報告

日時:2011年12月4日(日) 9:30~16:40

会場:成蹊大学

テーマ:「発達障害とそのひろがり」

#### ～さまざまな分野における発達障害～

第7回年次大会が12月4日に成蹊大学(東京都武蔵野市吉祥寺)で開催されました。昨年12月にJDDネットが一般社団法人化されて初めての大会になります。

大会長は市川宏伸先生、副大会長は柘植雅義先生でした。大会前日は大雨でしたが当日は天候に恵まれ、参加人数は700名程と報告をうけています。

.....

平成16年12月3日に発達障害者支援法が参議院を通過し、その夜に厚労省の記者クラブで5団体によるJDDネットの準備会のお披露目をした時から7年が経過しています。この間に発達障害の啓発が進み、特別支援教育も少しずつ進んできています。このような状況下で迎える年次大会です。発達障害はいまや、社会の多くの課題と関連を持っています。いじめ、からかい、不登校、ひきこもり、フリーター、ニート、虐待、自傷、理解できない犯罪など多くの分野で話題になっています。これを念頭に、今回のテーマは「発達障害とそのひろがり」としました。

徐々に発達障害への理解も進んできている一方で、発達障害の拡大解釈、誤解に基づく偏見なども見られています。“発達障害の適切な理解”、“発達障害に合った教育”、“発達障害に見合った就労”などまだまだ解決されるべき問題は山積しています。発達障害そのものは連続体であり、発達障害間の重なり、経過による様態の違いなども知られています。高次脳機能障害、言語発達の問題などとの異同など、これから解決していく課題も見られます。

～年次大会長 市川宏伸先生のご挨拶から～

.....

JDDネットには、正会員団体(全国団体)18、エリア会員(地方団体)48が加盟しています。障害の種別、学会・学派、職種、立場や主張、地域等の壁を超え、当事者支援を主眼においたネットワークであり、このJDDネット年次大会は、発達障害に関する全ての方が一堂に会して開催するもので、今大会は東京での委員会に参加が可能な14の正団体から実行委員が出されました。

全国LD親の会からは丹藤が実行委員として委員会に参加させて頂きました。

テーマに沿ったプログラムの企画構成やスケジュール確認、役割分担など実行委員会は6回開催されました。

様々な方たちと同じ目的に向けて同じ空間を過ごせた事はとても楽しく貴重な体験でした。

今大会は、4会場で、15の演題が企画され、そのうち3つがJDDネット災害支援の報告でした。JDDネット、支援団体、被災当事者からそれぞれ報告がありました。原発問題がさらに状況を混雑化していることが改めて理解でき、被災者支援にはネットワークの構築が欠かせなく、協力しあい支えあう体制を日ごろから整備しておく必要性を再確認することができました。

また、特筆すべき事は、7年目にして職能団体(6団体)のコラボ企画が実現されたところだと思います。演題は「ハビリテーション～他職種で連携する幼児期支援～」。持っている機能を生かしてさらに発展させる、障害とは障害を持つ状況が周りに適応しない場合に生ずるという考えを基にして、職能の皆様が一丸となって取り組んで頂けることに保護者として期待したいと思います。

今大会は、ランチオンセミナーがありました。ランチをとりながら聴講できる企画です。知識向上を図る目的のこのセミナーには、多くの方が参加されていました。

さて、全国LD親の会として「発達障害のある人の就労における課題と支援のありかた」と題する企画を致しました。講師に近畿大学の向後礼子先生をお願いをしました。向後先生は障害者職業総合センターに15年間勤務され、発達障害がある人の教育から就労への移行のテーマを多くとりあげていらっしゃいます。発達障害のある人が豊かな人生を送るためには、就労は大きな問題です。この企画で、就労に向けての準備や就労現場における様々な課題が見えました。その課題に向けての支援のありかたについて、参加された皆様に考えて頂いた良い機会になったと思います。企業アンケート調査の結果など興味深いデータも見せて頂き内容の濃いものでした。参加者は190名程。大変盛況だったことをうれしく思っています。

第8回年次大会は、福島大学で開催の予定です。

(丹藤)

### 懇親会

17時30分から吉祥寺第一ホテルで懇親会が開催されました。受付は全国LD親の会が担当させて頂きました。44名の出席がありました。

「発達障害の支援を考える議員連盟」の議員の方々のご挨拶から発達障害支援に向けての温かい想いを感じることができました。又、多くの他団体の方との交流を楽しみ刺激にもなり有意義な時間を過ごすことができました。

多くの方々から、成蹊大学の岩田淳子先生、JDDネット事務局長の加藤永歳氏、JDDネットの事務局の渡辺恵可氏に労いの言葉がありました。お三方のみならず実行委員や当日スタッフ、そして展示ブースをお手伝い頂いた皆様、ありがとうございました。(丹藤)

## 親の会設立準備を進めています！ 群馬県 岡山県 大分県

### ●群馬県での親の会設立準備

#### ・群馬県LD等発達障害児・者親の会 設立説明会&研修会

日時:8月28日(日) 会場:群馬県社会福祉総合センター

協力:群馬県発達障害支援センター

テーマ:「発達障害のある児童へのサポート～教育現場では～」

講師:峯岸幸弘氏(高崎市通級城山教室所属)

峯岸先生から事例を交えながらのご講演がありました。その後、保護者(12家族)と支援者(13名)とに分かれ説明会を行いました。保護者のグループでは、自己紹介と参加者全員の方の現在抱えている問題を話しあいました。早速、親の会設立にむけて準備していきたいとの声が上がリ、連絡係に保護者2名が決まりました。支援者のグループでは、支援者同士がつながり合う良いきっかけになったという意見があり、今後も連携して親の会をサポートしていきたいと心強い申し出を頂きました。群馬県発達障害支援センターの安田所長には、たいへんお世話になっており、感謝しています。

その後、準備会を3回行っています。

#### ・第1回準備会 9月11日(日) 群馬県社会福祉総合センター

保護者9名が集まりました。病院などの情報交換をし「現状を知って、群馬の親の会の方向性や求めて行くものについて、話ができるといいね」という意見も出ました。自分の抱えている悩みや不安など何でも話せる場所ができたとの実感を持たたという感想がありました。

#### ・第2回準備会 10月16日(日) 群馬県社会福祉総合センター

保護者12名が集まり、会の名称(だるま)と代表1名、副代表2名事務局1名を決めました。年齢別にグループを作り、活動をしていくことが決まりました。また、会員の募集と会の告知のため2月に講演会を開催したいとの要望がありました

#### ・第3回準備会 11月12日(土)

会の正式名称が、「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」と決まりました。会の活動の方向性や講演会の内容を検討しました。また、グループは①幼稚園～小学校低学年(サーキットトレーニングや子ども同士のかかわりを中心)②小学校高学年～中学生(思春期を乗り切るために・進学に向けての勉強会など)③高校生以上(就労・福祉についての勉強会など)の3つを立ち上げ、活動していくことになりました。

#### ・講演会 2012年2月12日(日)

群馬県社会福祉総合センターにて、梅田真理先生(国立特別支援教育総合研究所)にお越し頂いて開催する予定です。詳細は、全国LD親の会のホームページをご覧ください。  
(丹藤・木村)

### ●岡山県での親の会設立準備

#### ・岡山県のLD等発達障害親の会設立準備会の名前が、 「はあとりんく」に決まりました！

「子どもたちを囲んで、いろいろな立場の人たちが心でつながり、暖かな輪が広がっていくように」という、岡山の準備会の皆さんの願いが込められています。

「はあとりんく」では連絡係2名の方が中心になって、2か月に一度、定例会を開いています。定例会では、子どもたちが一緒に遊べる場も設定しています。

現在、「はあとりんく」への会員およびサポート会員の登録を受け付けています。全国LD親の会事務局まで、お問い合わせください。

#### ・定例会 9月17日(土)15:30～ 場所:岡輝公民館

参加者:おとな20名・子ども13名・ボランティア3名  
合計33名

内容:ビジョントレーニングの紹介(資料を使って)

グループディスカッション(議題自由)

保護者だけでなく、参加者の担任の先生も参加してくださいました。大変多くの方の参加があり、1時間半という時間があっという間に過ぎてしまいました。

#### ・定例会 11月19日(土)15:30～ 場所:岡輝公民館

通級指導教室の先生をお迎えし、フリートークでかなり熱い話し合いになりました。小学校高学年のお子さんの保護者からは、中学の現状や支援についての質問が多く出されました。

子どもたちも一緒に集まるようになって3回目になります。お互いだんだん慣れてきて、一緒に遊べる子も出てきたようです。子どもたちの相手をしてくれるボランティアさんが、毎回楽しそうに子どもたちと遊んでくださっています。

#### ・岡山市発達障害者支援センターの開設記念行事で、「はあとりんく」紹介のブースを設けます。

平成23年11月に、岡山市発達障害者支援センター「ひか☆りんく」がオープンしました。開設を記念して、講演会と展示会が開催されます。

展示会では、発達障害者の支援機関、支援団体がブースを設けて活動の紹介をします。「はあとりんく」もブースを設けますので、お気軽にお立ち寄りください。

日時:2012年1月22日(日) 10:00～13:00

場所:岡山ふれあいセンター 小ホール

#### ☆岡山市発達障害者支援センター開設記念講演会

日時:2012年1月22日(日) 13:30～16:00

場所:岡山ふれあいセンター 大ホール



「発達障害のある人の豊かな生活に向けて

支援センターに期待すること」

重松 孝治先生(川崎医療福祉大学特任講師)

☆☆☆☆ 講演会のお知らせ ☆☆☆☆

「発達障害のある子どもの

特性に沿ったサポートと教材の活用」

～使い方で変わる教材の有効性～

LD等発達障害のある子どもの特性は一人ひとり異なり、抱えている困難さも様々で、学び方も違います。目の前の子どもの特性に沿った指導と教材の活用方法について、学びます。

日時:2012年2月12日(日)午後1:30～4:30

場所:岡山県生涯学習センター 大研修室

岡山県岡山市北区伊島町3丁目1-1

講師:山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市教育委員会特別支援教育専門家チーム・堺市教育委員会リーダー育成事業推進委員・自閉症スペクトラム支援士アドバンス)

定員:150名

参加費:800円(岡山県LD等発達障害親の会の設立準備会「はあとりんく」へ会員登録された方は、参加費は半額になります。)

申込方法・お問い合わせ先等詳細は、全国LD親の会のホームページをご覧ください。(井上)

●大分県での親の会設立準備

「大分県LD等発達障害親の会設立準備会」

第3回:2011年9月25日(日)10:00～12:00

第4回:2011年11月20日(日)10:00～12:00

次回第5回:2012年1月15日(日)10:00～12:00

会場:大分県身障者福祉センター

大分県では2011年2月の「全国LD親の会 特別支援教育講演会 IN 大分」を機に、親の会の設立を目指し準備を進めています。現在、小中学校の子どもを持つ保護者を中心に登録メンバーが2か月に一度集まり、学校や家庭で困っていることを相談し合ったり、専門機関や支援に関する情報の交換等を行っています。毎回、大分県発達障がい支援専門員や特別支援教育の現場の先生方にご参加頂き、大分県の教育・福祉等の実情を踏まえたアドバイスを頂いており、大変心強く思っています。

また、準備会メンバーの「子どもたちの進路や自立が心配」という声を受けて、3月には教育と就労支援の専門家を招いた講演会を開催します。併せてこの講演会で新しい登録メンバーも募集予定です。次回準備会でこの講演会の実施について話し合いながら、大分県親の会発足に向けて弾みをつけたいと思います。

【講演会予告】

日時:平成24年3月11日(日)10:00～12:00

場所:大分市コンパルホール 302号会議室

講師:雫石 弘文 氏 (別府教育事務所 所長)

村上 寿一 氏 (大分障害者職業センター)

(大曲)

祝！博報賞(特別支援教育部門)受賞

新潟いなほの会－発達障害児者親の会－

～親の会が主催する親と教師と本人を交えた個別の指導計画の立案と評価を行う事例検討会～

新潟いなほの会が、第42回博報賞(特別支援教育部門)を受賞しました！先駆的かつ地道な活動が認められ、うれしい限りです。心からお喜び申し上げます。新潟いなほの会 沼田代表に受賞の理由となった「事例検討会」について、コメントを寄せていただきました。

\*\*\*\*\*

2000年に親が作る個別の指導計画のための事例検討会を初めて行うにあたっては、新潟大学の長澤正樹先生にスーパーバイザーをお願いし、具体的に次の2つのお願いをしました。①親と教師が同席し、可能ならばいずれ本人も参加して行いたいということ ②一つの事例に対して、立案と評価の2回の検討会を行いたいということです。長澤先生は快く引き受けて下さいました。事例検討会を実施する前後に事例の子どもの親と親の会スタッフとが必ず打ち合わせを行い、共同で、事例検討会の当日の資料と終了後の個別の指導計画を作成して、実施してきました。事例検討会は、昨年までに61事例を実施しました。始めた当初は、通常の学級で個別の指導計画を作成することは難しかったのですが、それを先駆けて実施し、継続してきたことを評価して頂いたと思います。育て方の難しい子どもたちを持つ保護者自身が、事例検討会により子どもの特性を理解し、具体的にできる支援を行うことにより、子育てに少しでも前向きに取り組み、子どもの成長を感じ、子育てを楽しんでほしいと願って、これまで取り組んできました。これからも事例検討会がそのようなきっかけとなることを願っています。(沼田)

## 近畿ブロック紹介

各会、協力しながら、前向きに動いています。  
今回は、特にホットな話題を掲載します。

### 京都市教育委員会教育功労者 表彰

京都LD等発達障害親の会「たんぽぽ」

平成23年11月10日、永年にわたりLD等発達障害のある子どもの適切な就学支援をはじめ、発達障害に対する市民の理解と認識を深めるための各種啓発事業を展開するなど、京都市総合育成支援教育の充実発展に多大な貢献をしたとして、第63回京都市教育委員会教育功労者として表彰されました。これからも力を合わせて発達障害などのある子どもや青年たち、その家族の笑顔を少しでも増やせるような活動を目指していきたいと思っております。

### ホースセラピー講座 開催!!

大阪LD親の会「おたふく会」

財団法人高津成和会様から事業助成金を賜り、NPO法人ホースフレンズ枚方セラピー牧場の協力を得て、「平成23年度発達障害のある人のホースセラピー講座」を実施しています。ここでは乗馬や馬の手入れの他、おたふく会の子供達に合わせたプログラムに取り組んでいます。ホース(アシステッド)セラピーは、医療・教育・スポーツ・レクリエーションの4つの要素を併せ持った心身両面への直接的セラピー効果が期待されており、セラピー受講の



子ども達も馬とのふれあいやスタッフの方々の関わりを通して、大変充実した時間を過ごしています。

### 県内各地でホットな活動を続けています!

兵庫県LD親の会「たつの子」

◆10/22(土)恒例の運動会を開催。感覚統合療法を取り入れ趣向を凝らしたプログラムに、幼児から青年がとびきり楽しいひと時を過ごしました。◆11/13(日)中田洋二郎先生(立正大)をお招きし、「発達障害と家族支援～支援者と家族のより良い連携を求めて～」のテーマで講演会を開催。先生の実践に基づいた、温かく謙虚な支援者の視点からのお話には、会員や家族は、癒されかつ前向きに歩む

勇気を得、教育・療育等支援者からも、「新しい視点を得た」「実践につなげたい」との感想が多く寄せられました。本人への支援の連携が進むことを願います。◆1・2月に、兵庫県内三地域(阪神、はりま、但馬)の地元親の会と共



同主催にて、各地域で講演会開催予定。各地域の発達障害への啓発理解促進、親の会同士の交流を深める予定です。

### 保護者のストレスマネジメント講座開催

困り感を抱える子を支援する親の会/らっきょうの花

11月19日(土)、NPO法人「えじそんくらぶ」代表の高山恵子さんをお招きし、鳥取大学地域学部「すくすくホート」様との共催で『ワークショップ 気になる子を育てる保護者のストレスマネジメント講座』を開催致しました。当日は、ご夫婦での参加や約100キロ離れた遠方からの参加もあり、会場は定員いっぱいの参加者に恵まれました。

初めに6~7人のグループに分かれ、ワークショップを開始。一見かたる様な「ちょこっとチャット」を使つての自己紹介に参加者の気持ちも早々にほぐれ、それから高山さんの織りなす世界に引き込まれていきました。

困り感を抱える子を育てる中で、不安や悩みを抱えながら日々を過ごしている保護者にとって、本企画はストレスを解消する方法に気付く絶好の機会となったようです。閉会時、満面の笑顔で帰っていく保護者の笑顔で私達スタッフも笑顔になれる…そんな企画となりました。

### あおぞらの2011年

「あおぞら」

昨年冬から「発達障害を知ろう!できることから支援を始めよう!」と子育てイベントでの啓発、啓発用リーフレット作成、配布、支援グッズ展示、発達障害疑似体験、絵カード作り等多種多様な取り組みをしてきました。発達障害を知っている人が一人でも増えることを願って、一人でも多くの方に支援が届くようにと活動してきました。

今年冬は徳島県の委託を受け1年の集大成となる人権を学ぶ3回の連続講座を奥平氏と大西氏を(株)おめめどうよりお迎えして開催しました。受講された方が自己選択、自己決定、自己責任の大切さを知って、来年、多くの当事者の方の受ける支援の質が向上することと思っております。来年は継続した支援のバックアップにも力を注ぎたいと思っております。

近畿ブロックでは、毎年、研修会や青年の交流会を開催しています。

## 近畿ブロック研修会

発達障害のある人の教育から就業への移行の課題

～全国LD親の会・会員調査3時点比較～

日時:2011年11月19日(土) 午後2:00～4:30

会場:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)4階大会議室3

講師:内藤孝子氏(NPO法人全国LD親の会 理事長)

参加者:58名(親の会41名、一般15名)

近畿ブロックの今年度の研修会は、全国LD親の会が、2003年、2006年、2009年に18歳以上の子どもをもつ会員を対象に実施した会員調査をまとめた「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅲ」を基に、全国LD親の会内藤孝子理事長に青年期以降の発達障害のある人の実態と教育から就業への移行とその課題や支援についてお話をさせていただきました。今回は近畿ブロック会員だけでなく一般の参加も呼びかけ、教育や支援機関からもご参加いただきました。受付開始の頃にはあいにくの大雨になりましたが、熱意を持って参加された方々で会場は一杯になりました。アンケートの回収率も80%強あり、参加者の関心が高かったことがうかがえました。内藤さんのお話はとてもわかりやすく、成人の課題、親の関わり方など、冊子を読むだけではよくわからないところを、データを読み解いて現実に即して解説していただき、実際の就労支援の現場での経験談もうかがうことができ、まだ少し早いかなど思いながら参加された小中学校のお子さんたちの保護者にも、今後の子育てへの見通しやサポートに大いに参考にさせていただくことができたと感じます。また、今回の研修会で学んだことを自分のものにして、各会の活動に「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅲ」をしっかり使って頂きたいと思いました。

今後も会員のニーズを踏まえ、より充実した研修会を続けていきたいと思っています。(茶木)



## 近畿ブロック青年のつどい

近畿ブロックでは2004年より青年の交流を目的として、各会の持ち回りで年に一度青年達の交流会を行っています。各会が知恵を絞りご当地ならではの企画をしますが、担当会の青年たちが手伝ってくれたり、ボランティアさんたちの出会いがあったりと、この交流会を心待ちにしてくれる青年も増えてきました。「青年のつどい」というネーミングも青年たちが付けてくれたものです。

今年は京都「たんぼぼ」が担当会。12月4日(日)に太秦映画村を楽しむ企画をしました。遅い紅葉のためか、思いのほか混雑していた嵐電でしたが、映画村の無料休憩所を利用したオリエンテーションは、青年のつどいだけで使用する事が出来ました。コーディネイターやボランティアの方々のお陰で緊張がまだ解けない青年たちも比較的早い時間から良い雰囲気作りができていました。アトラクションの中には、感覚過敏の方には不安が強いかも・・・と心配していましたが、終わってみれば皆さんにとっても楽しかったと喜んでおられました。ボランティアさんが担当グループの全員に目を届かせながら、なおかつ、一人一人に合ったさりげない気配りや、声かけをしてくださりました。若くて可愛い方たちなのにさすが！と感心したり、教えられたり。コーディネイターの松本さんには、全体を把握し、安全を第一に親睦が図れるように的確な進行をして頂きました。5年前に全国の青年の交流会でもボランティアをしていたのですが、覚えてくれていた青年との再会に喜んでおられました。青年達は、戸惑い、不安、緊張、ストレスを、本人なりに解決していると感じました。帰り際には青年たちから口々に「すごく楽しかった。来年の青年のつどいを楽しみにしている」と言って貰えたことがスタッフへの一番のご褒美でした。



（たんぼぼ）

### 正会員

滋賀LD親の会「トム・ソーヤ」、京都LD等発達障害親の会「たんぼぼ」、奈良LD親の会「パンジー」、大阪LD親の会「おたふく会」、大阪LD・軽度発達障害親の会「翼」、兵庫県LD親の会「たつの子」、広島発達障害親の会「明日葉」、困り感を抱える子を支援する親の会/らっきょうの花(鳥取)、あおぞら(徳島)

### 準会員

和歌山県LD等発達障害親の会「ほっぷ」

●**特定非営利活動法人全国LD親の会第5回総会のお知らせ**

日時：2012年6月16日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟402（東京都渋谷区）

●**第11回全国LD親の会公開フォーラムのお知らせ**

日時：2012年6月17日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小ホール（東京都渋谷区）

●**NPO法人全国LD親の会 活動報告**

- 7月29日 「障害者基本法の一部を改正する法律案」が可決・成立
- 8月06日 サポートツール・データベース事業の運営会議・公募審査会(内藤・井上)
- 8月11日 「かけはし70号」発行
- 8月17日 社団法人日本理学療法士協会助成金決定(事業名:LD等の発達障害親の会の設立支援)
- 8月18日 特別支援教育の在り方に関する特別委員会  
合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ(山岡) 9/14、10/24、11/28、12/16
- 8月19日 特別支援教育の在り方に関する特別委員会(山岡) 9/15、10/28、11/4、12/9
- 8月27日 ボランティア支援員養成講座(大阪)(内藤・井上・茶木・清水) 8/28
- 8月28日 群馬県LD等発達障害親の会準備会説明会(丹藤・木村) 9/11、10/16
- 9月04日 サポートツール全国キャラバン2011「教材教具研修会」in 広島
- 9月17日～19日 日本LD学会第20回大会 親の会ポスター展示(跡見学園女子大学・文京キャンパス)
- 9月18日 日本LD学会第20回大会 親の会企画シンポジウム・親の会懇親会
- 9月25日 特別支援教育支援員養成講座(東京)受講生募集
- 9月25日 大分県LD等発達障害親の会準備会(大曲・梅野) 11/20
- 10月22日 岡山県LD等発達障害親の会準備会(井上・茶木)
- 10月30日 NPO法人全国LD親の会 第9回評議員会、第11回理事会
- 11月06日 特別支援教育支援員・ボランティア支援員養成事業、拡大委員会、実行委員会(内藤・山岡)
- 11月24日 家族支援ピアカウンセラー養成講座(神戸)受講生募集
- 11月30日 労働・雇用分野における障害者権利条約への対応の在り方に関する研究会(山岡) 12/21
- 12月04日 JDDネット第7回年次大会(東京)(丹藤・内藤・山岡・木村)
- 12月06日 第34回全国特別支援教育振興協議会(丹藤・木村)
- 12月09日 特別支援教育支援員養成講座(渋谷)(内藤・山岡・木村) 12/10、12/11、12/17、12/18
- 12月17日 サポートツール・データベース事業の運営会議と公募審査会(井上)

●**第11回理事会報告**

日時:2011年10月30日 16:30-17:00 場所:千駄ヶ谷区民会館 会議室

出席者:井上育世、大曲千代子、多久島睦美、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子、山岡修

**[審議事項]**

第一号議案 NPO法人全国LD親の会 第9回評議員会における審議結果の承認  
第9回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

< 審議事項 >

- ・第5回総会・研修会の日時の決定
- ・準会員団体について
- ・収益事業(冊子販売)の納税
- ・定款変更の取り下げ、再提出
- ・第11回全国LD親の会公開フォーラムの開催

